

① 研究課題名：off pump 冠動脈バイパス術と on pump 冠動脈バイパス術の比較検討

② 研究の目的：

冠動脈バイパス術を低侵襲化する目的で人工心肺装置を用いない off pump 冠動脈バイパス術 (OPCAB) が 1990 年代に導入されました。以来、種々の研究で OPCAB と従来の人工心肺を用いた on pump 冠動脈バイパス術 (ONCAB) の比較がされてきましたが、はっきりとした差は未だ出ていません。本研究は、OPCAB と ONCAB の治療成績を比較し、冠動脈バイパス術において人工心肺が与える影響を検証することを目的としています。

③ 研究期間：西暦 2021年 4月 ～ 2022年 3月 31日

④ 研究代表者及び研究実施施設一覧

研究代表者：名古屋市立大学大学院医学研究科心臓血管外科 小川真司

研究実施施設：名古屋市立大学医学部附属東部医療センター、刈谷豊田総合病院

⑤ 研究の対象：

西暦 2009 年 7 月から西暦 2020 年 12 月までに狭心症、心筋梗塞と診断され、冠動脈バイパス術を実施した方

⑥ 調査項目：

臨床所見

年齢、性別、身長、体重、EF、CCS class、3VD、左主管部病変の有無、病歴に関する情報（糖尿病、脂質異常症、高血圧、心筋梗塞、インスリン使用、不整脈、脳梗塞、COPD、PAD、透析、喫煙

血液所見

赤血球数、白血球数、Hb 値、Ht 値、MCV、MCH、MCHC、血小板数、肝機能 (AST、ALT、 $\gamma$ -GTP)、腎機能 (BUN、CRE、eGFR)、HbA1c、T-cho、TG、CRP

手術データ

手術日、Effective、ONCAB、OPCAB、手術時間、redo、グラフトデザイン、冠動脈末梢吻合数、IABP、輸血量

短期成績

手術 (30 日) 死亡、脳梗塞、新規心房細動、縦隔炎、ICU 滞在期間、手術後約 1 週間後グラフト開存の有無

5) 中期成績 (術後 3, 4 年) (生存率、グラフト開存率、心筋梗塞回避率、PCI 回避率、心イベント回避率) 2019 年、2020 年の症例に関しては術後 2、3 年までのデータを使用する。)

⑦ 研究の方法：

研究責任/分担医師が、対象となる方の診療録より「⑥調査項目」の情報を調査し、「症例調査票」に記入します。得られた情報は、名古屋市立大学大学院医学研究科心臓血管外科に送付され、他施設の情報と合わせて集計・解析されます。

⑧ 研究成果の公開

研究結果は、学会又は医学雑誌にて公表される予定です。

⑨ 個人情報の保護

あなたのカルテ番号とは異なる新たな番号を付番し、その番号を用いて症例調査票を作成します。このため、個人情報が外部に漏れることはありません。

この研究に参加されたくない (あなたのデータを使ってほしくない) 場合は、医療者にその旨

をお伝えください。この研究に用いるデータからあなたの情報を削除いたします。削除のお申し出をされた場合であっても、あなたが不利益を受けることはありません。

⑩ 利益相反

特記すべき利益相反はありません。

⑪ 問い合わせ先

研究事務局	診療科	研究責任者
名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 住所：〒464-8547 愛知県名古屋市千種区若水1-2-23	心臓血管外科	浅野 實樹 TEL：052-991-8121（代表）